

2

『和声学の神様』と言われた しもおさかんいち 下總 皖 一 の業績

加藤 良一 男声合唱団コール・グランツ 2024年4月10日

和声学の神様

男声合唱曲「坂東栗橋感懐」に含まれる四曲のうち地元民謡「栗橋音頭」を除く、「栗橋草刈り唄」、「小舟を出せば」、「泊り舟」の三曲は下總皖一の作曲によるものです。

下總皖一（本名：覚三）は、明治31年（1898）に埼玉県北埼玉郡原道村大字砂原（現加須市砂原）に生まれ、原道尋常小学校卒業後、父親が校長を勤める隣の栗橋尋常高等小学校（旧：栗橋町立栗橋東第一小学校、現：久喜市立栗橋小学校）に進学、家から2里近く離れた栗橋まで野道を歩いて通学しました。

長じて東京音楽学校（現東京芸術大学）へ進学、作曲法を学び、卒業後はベルリンへ留学、ホッホシュレでパウル・ヒンデミットに師事し作曲法を学びました。

昭和10年（1935）に著した理論書「和声学」※は、ドイツでの恩師パウル・ヒンデミットから激賞され、さらにその後、「作曲法」「日本音階の話」「作曲法入門」「楽典」「音楽理論」「対位法」などの理論書を上梓し、『和声学の神様』とまで言われるようになりました。いっぽうで、「たなばたさま」「花火」「野菊」「ほたる」などの親しみのある曲は、現在でもよく歌われています

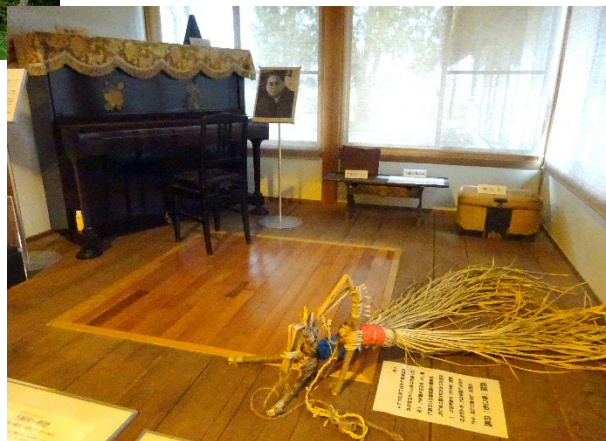


少年時代の下總皖一

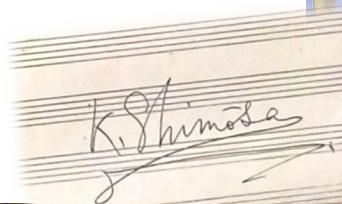
※ 和声学とは、音楽を構成する縦の響き（和音）と横の響き（パート進行）の関係を学ぶ学問

下總皖一資料館 アスタホール

日本の近代音楽の発展に大きな足跡を残したと言われる音楽家下總皖一の関連資料は、アスタホール(埼玉県加須市・大利根生涯学習センター)↓に展示されています。



「下總」の読み方については前号(2)にも書いたように、下總皖一先生ご自身は「シモフサ」ではなく、「シモオサ」が正しいと述べています。



下總は何て読むの？

「シモフサ」？
「シモウサ」？
「シモオサ」？

加須市では以下の理由から、下總皖一の
下總は、**シモオサ**と読むこととしています。

利根のほとりに エピソード下總皖一より

下總皖一先生の「下總」の読み方について「シモフサと読む方が、これからはシモオサかね」とよく言われます。それには、何と答えて良いのか悩まれます。

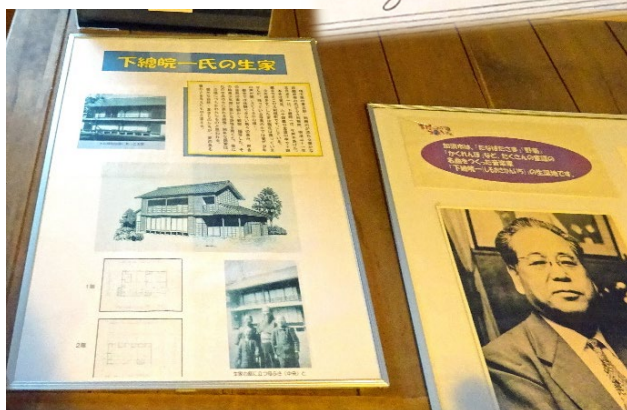
下總先生自身は、シモフサという読み方を好まれておられ、シモオサが正しいというご意見を、昔に書かれたお返事にもお見えます。ご質問の件は、利根のほとりに書かれたお返事にもお見えます。利根のほとりに書かれたお返事にもお見えます。利根のほとりに書かれたお返事にもお見えます。

もともと「シモ」というのは、地名からきているものばかりで多いと聞かれています。であるならば、下總の地名にもそのままだと聞かれています。利根のほとりに書かれたお返事にもお見えます。利根のほとりに書かれたお返事にもお見えます。利根のほとりに書かれたお返事にもお見えます。

以上より、利根のほとりに書かれたお返事にもお見えます。利根のほとりに書かれたお返事にもお見えます。利根のほとりに書かれたお返事にもお見えます。利根のほとりに書かれたお返事にもお見えます。

「下總皖一先生誕10年 記念特展」より

利根のほとりに書かれたお返事にもお見えます。利根のほとりに書かれたお返事にもお見えます。利根のほとりに書かれたお返事にもお見えます。利根のほとりに書かれたお返事にもお見えます。



下總皖一音楽賞／下總皖一を偲ぶコンサート

1987年、埼玉会館と埼玉会館友の会が中心となって、下總皖一を記念する「下總皖一音楽賞」の制定に動き出しました。同年、下總皖一生誕の地、大和根町(現・加須市)に友の会からの働きかけによって下總皖一を顕彰する会が作られ、「下總皖一先生を偲ぶつどい」が開催されました。この会では、下總皖一の東京藝術大学時代の教え子である鎌田弘子先生(前・男声合唱団コール・グランツ指揮者)の講演「わが師下總皖一先生を語る」や下總作品の演奏が行われました。これが、のちに「下總皖一を偲ぶ会」となりました。

下總皖一音楽賞は、作曲家・音楽理論家・音楽教育家として日本近代音楽の基礎を作ったといわれる精神を受け継ぐ、埼玉県ゆかりのプロの音楽家を表彰するものです。合唱関係では、2015年度音楽文化発信部門で、栗山文昭氏(合唱指揮者:埼玉ゆかりの武蔵野音楽大学教授)が、全日本合唱コンクールで数多くの金賞、3回のコンクール大賞を受賞(1963～1994)し、ヨーロッパ・グランプリ合唱コンクール(1995)では東洋に初めてグランプリをもたらすなど合唱指揮者として活躍してきたとして受賞しています。

また、2012年度には、下總皖一音楽賞特別賞を声楽家の持木弘氏(埼玉県加須市出身、在住)が、地元加須市で毎年開催しているリサイタルはじめ、下總皖一の歌や精神を広めることに長年貢献してきたとして受賞しています。

男声合唱団コール・グランツおよび姉弟合唱団である女声合唱団ヴォーチェ・ビアンカは、「第1回下總皖一を偲ぶコンサート」(1987)に出演以来、第3～5回と連続出演しています。さらに、「第2回下總皖一音楽賞授賞式」(1990)埼玉会館)、同第3回授賞式(1992)にそれぞれ出演し下總皖一作品などを鎌田弘子先生の指揮で演奏しています。

【中野さとみプロフィール】

千葉県出身。埼玉県久喜市南栗橋在住。東京音楽大学作曲科卒業。在学中に作曲を北爪道夫氏に師事。楽器は箏を滝田美智子氏に師事したほかピアノの研鑽を積む。現在久喜市教育委員会主催放課後子ども教室(栗橋南小学校)実施委員長。地域教育にも注力。

【バックナンバー】



坂東栗橋感懐1 男声合唱団コール・グランツ創立35周年記念委嘱新作

Back

[坂東栗橋感懐TOPへ](#)

Home

[HOME PAGEへ](#)